



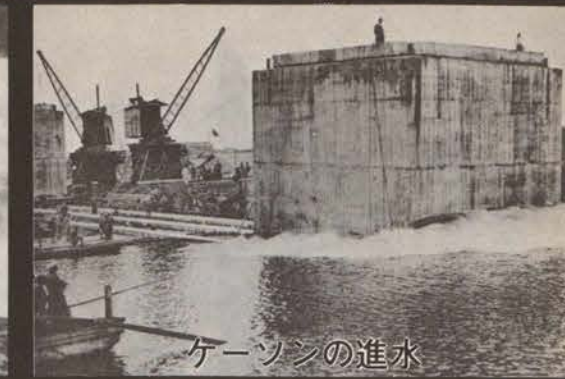
往時の留萌副港



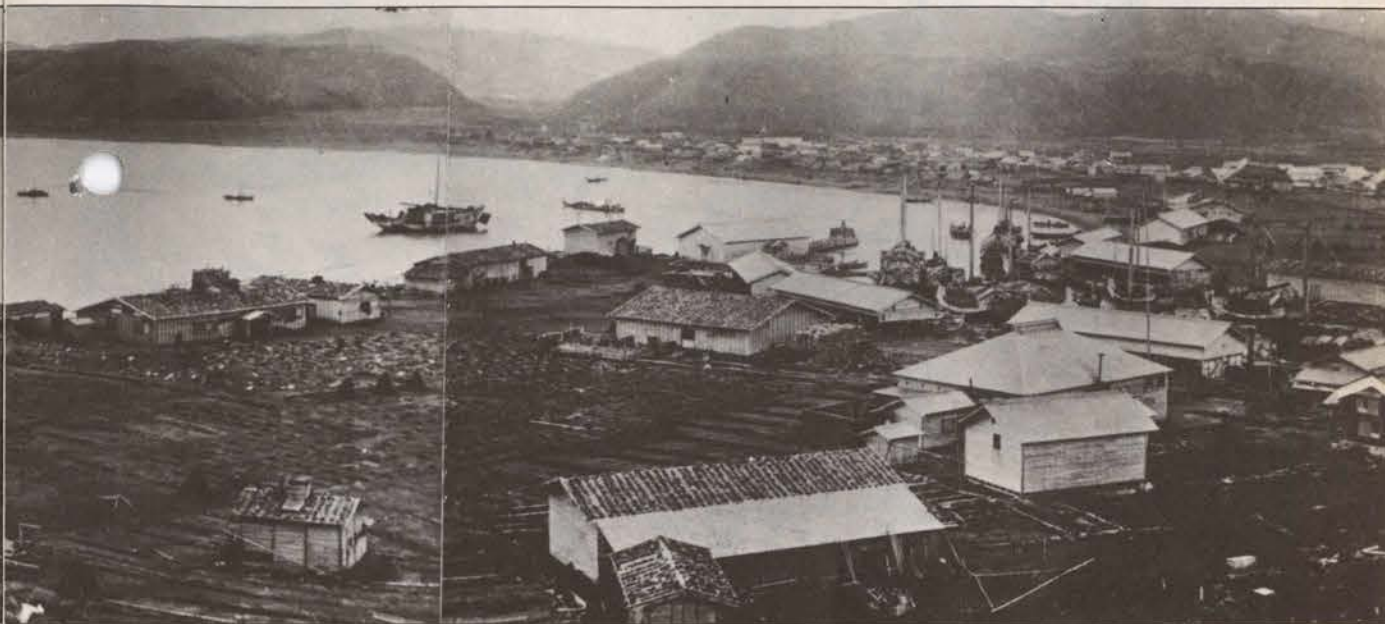
諸船でにぎわう留萌港



南防波堤にぶつかる大波濤



ゲーツンの進水



## 明治末期築港前の留萌川

- ▽33年・7月藤山小学校開校する／戸長役場を本町一から現在の市役所庁舎(幸町一)へ移す／戸数八百三十七戸人口三千九百四十人
  - ▽34年・留萌・妹背牛間の道路開通／戸長役場財政八千五百八十円
  - ▽35年・4月留萌村に道二級町村制を施行、戸長役場から村役場と改称する。初代村長に伊藤孫右衛門が就任する／三泊村に戸長役場設置／6月島海直隆、留萌村収入役に就任する。
  - ▽36年・4月留萌小学校寿町の現在地へ新築移転する。
  - ▽37年・8月五十嵐徳太郎・道会議員に当選する。
  - ▽38年・4月中幌糠小学校開校する／人口七千六百六十人。
  - ▽39年・6月村立留萌病院が開院する／4月留萌村に二級町村制が施行される／8月村長に石沢兵吾が就任する／8月原敬(内務大臣)が築港視察のため来村する／郡人口二万二千五百八十七人
  - ▽41年・4月尋常高等小学校分教場を留萌尋常高等小学校となる／6月町村制施行、留萌町となる、初代町長に石沢兵吾が就任する。
  - ▽42年・9月峠下小学校開校する／郡人口一万三千四百六十五人。
  - ▽43年・4月留萌築港工事に着手する／11月留萌・深川間鉄道が開通する／留萌に初めての電灯がつく／ハンドル式電話開始。
  - ▽44年・5月町長に早坂清一郎が就任する／5月出田平馬が道会議員補選に当選する。
  - ▽45年・大正元年・6月町長に中原郡一郎が就任する。
- 《大正のころ》
- ▽2年・7月町長に山下良実が就任する／出田平馬道会議員に当選
  - ▽3年・9月増毛支庁を留萌町に移し、留萌支庁と改称する。
  - ▽4年・日石が峠下一帯をボーリングする。
  - ▽5年・4月女子補修学校開校／8月出田平馬六期道会議員に当選。
  - ▽6年・11月町長に福岡幸吉が就任する／留萌川水路堀さくに着手。
  - ▽7年・7月町長に野本治平が就任する／小平薬村が分村する。
  - ▽8年・官公庁が増毛から留萌に移り始める／人口一万五千七百人。
  - ▽9年・4月築港計画を変更、工期延長と内港の拡張／町議会、町債二百五十万円の借入れを議決／当時の北海道人口二百三十五万人
  - ▽10年・10月町長に荒木正澄が就任する／11月留萌・増毛間鉄道が開通する／世帯数二千六百六十二・人口一万五千五百七十二人。
  - ▽11年・7月補修学校廃止、町立女子職業学校を開校／9月大留萌建設事業に着手する。世帯数二千五百八十七戸。
  - ▽12年・10月町長に村本初太郎が就任する／12月留萌川切替完成。
  - ▽13年・4月北海道庁立留萌中学校が開校／8月高橋文平道会議員に当選／12月大留萌建設事業完成する。人口一万五千八百三十九人。
  - ▽14年・1月大留萌建設事業完成祝賀会開く。
  - ▽15年・5月町長に小林正義が就任する／人口一万三千九百九十人。
- 《昭和に入る》
- ▽2年・9月留萌商業中等夜学校が開校／10月留萌・鬼鹿間に鉄道が開通／留萌保育所ができる／当時の町人口一万三千九百九十八人。
  - ▽3年・8月高橋文平が道会議員に当選／11月港北小学校が開校。
  - ▽4年・4月町長に樫田三郎が就任する／人口一万五千人となる。
  - ▽5年・1月五十嵐徳太郎葬儀、町葬で行なわれる。
  - ▽6年・12月留萌築港工事が完了する。
  - ▽7年・3月町長に赤石忠助が就任する／8月玉置信一が道会議員に当選する／9月留萌・羽幌間の鉄道開通する。
  - ▽8年・8月留萌港竣工記念祝賀会が開催される。
  - ▽9年・6月町債問題が解決／町立留萌病院を開設。
  - ▽10年・5月北防波堤に灯台できる。
- 《留萌港開港元年》
- ▽11年・2月留萌港が国際貿易港に指定される／8月玉置信一道会議員に当選する。
  - ▽12年・人造石油工場の誘致が始まる。
  - ▽13年・8月堺太一が道会議員に当選する／職業紹介所が設置。
  - ▽14年・10月人造石油工場は研究所として設置される／11月町長に岡田佐市が就任する。
  - ▽15年・8月堺太一が道会議員に当選する。
  - ▽16年・3月小学校を国民学校と改称する。
  - ▽17年・4月天塩鉄道の留萌・達布間が開通。
  - ▽18年・4月留萌愛児園(託児所)開設／7月上旬水道一期工事が着手。
  - ▽19年・10月留萌保健所が設置／東光小学校が開校する。
  - ▽20年・8月留萌沖で樺太引揚船三隻が撃沈される。
  - ▽21年・12月留萌商工会議所が設立／引揚者で人口が急増する。
- 《市制施行元年》
- ▽22年・1月市制施行促進町民大会が開催／4月町長に原田太八が就任する。四十栄助三郎が道議会議員に当選／5月留萌中学校・幌糠中学校が開校する／10月市制施行、留萌町が留萌市となる。当時人口三万五十七人・原田太八初代留萌市長に就任する。
  - ▽23年・4月道立留萌高等学校が開校／留萌・函館・大阪・博多を結ぶ裏日本定期航路開設／8月第一回港まつり開催／10月市内町名が制定となる／米軍の駐留基地となる。
  - ▽24年・1月玉置信一が衆議院議員に当選する／3月上旬水道第二期拡張工事に着手／5月東京・清水・名古屋を結ぶ表日本定期航路開設される／藤山ダムが完成する。
  - ▽25年・4月道女子高等学校を留萌高等学校に併合／5月港南中学校が開校／9月市立東病院を設置／11月五十嵐徳太郎に特別功労章を贈る。
  - ▽26年・3月市立留萌図書館を設置する／4月四十栄助三郎が道議会議員に当選、伊佐津和平に市功労章を贈る／5月公民館を設置。
  - ▽27年・2月留萌港が重要港湾に指定される。立花徳太郎に市功労